

編笠権八 (1956)

メディア 映画
ジャンル 時代劇
製作国 日本
色彩 B&W
時間 65分
初公開日 1956/12/28

【解説】

川口松太郎が長谷川一夫主演の東宝歌舞伎用に書き下ろした戯曲をもとに「不知火奉行」の松村正温が脚色し、同作の三隅研次が監督した時代劇作品。衣装やキャラクター造形に、後の「眠狂四郎」シリーズを思わせる雰囲気漂っている。

志賀原権八郎は誤って岡山藩池田家の指南役である神道十兵衛を斬ってしまい、失意のうちに旅に出ることになる。十兵衛の娘である千草と露路は父の仇を討つべく江戸へ向かい、池田家の藩士たちも権八郎を斬るため出立していた。足を痛め休んでいた露路は、道中で二人の男にいたずらされそうになるが、そこへ現れた権八郎に助けられる。仇同士であることすら知らない二人は、お互いに惹かれ合うのだったが…。

【クレジット】

監督 三隅研次
製作 武田一義
企画 山崎昭郎
原作 川口松太郎
脚本 松村正温
撮影 相坂操一
美術 菊地修平
音楽 小杉太一郎
出演 市川雷蔵 志賀原権八郎
近藤美恵子 露路
三田登喜子 千草
角梨枝子 お浪
千葉登四男 菊地左次馬
藤間大輔 仙太